

ル所トス流域狹小ナレトモ温泉湧水アリテ流量比較的豊

一、流域

富ニシテ一〇個乃至二〇個位ノ流量ハ容易ニ得ラルヘク
河川ノ勾配一〇分ノ一内外ナレハ落差大ナリ然レトモ山
腹全體トシテ圓錐形ヲナシ起伏少ク河川兩岸ノ地モ亦急

勾配ニテ下レルヲ以テ長キ水路ニ依リテ大ナル落差ヲ得
ル事能ハス若シ大ナル落差ヲ得ント欲スレハ水壓管ノ長
サハ殆ト河川ノ延長ニ變ラサルニ至ル可キヲ以テ落差小
ナル地點ハ容易ニ得ラルヘキモ落差三〇〇尺以上ノ地點

ヲ選ハント特殊ノ地形ヲ有スル所一、二ヲ除キ發電
所設計上有利ナル事能ハス

本水系ニ於ケル許可地點左ノ如シ

新川水系許可地點一覽表

| 種別 | 五百馬力一千馬力 | | 合計 |
|------|----------|--------|------|
| | 地點數 | 馬力數 | |
| 發電開始 | | | 九十七 |
| 一 | 一 | 九十七 | 九十七 |
| 未開始 | 七 | 四 | 三 |
| 合計 | 一六・四六九 | 一〇・三六六 | 八・五三 |
| | 八 | 五 | 三 |
| | 九 | 四 | 六 |

(一) 地形 萬瀬川水系ノ流域ハ鹿兒島縣薩摩半島ノ南大
部ヲ占メ日置川邊及鹿兒島ノ三郡ニ跨リ其ノ形圓形ニ近
ク東西六里南北五里ニ亘リ面積二六方里アリ

本流域ノ骨格ヲ構成スル金峰山脈ハ九州山系ノ一斷片
ニシテ萬瀬川ニ依リテ分タレ一部ハ流域ノ北部ヨリ東部
ニ亘リ一部ハ其ノ南西ニ崛起シ而シテ是等ノ間ニハ火山
噴出物展延セリ

流域ノ東部ニ當リ權現ヶ尾、烏帽子嶺、荒嶺等高サ一、五〇
〇尺許ノ山岳連嶺ヲナス之金峰山脈ニ屬スルモノニシテ
鹿兒島半島南部ノ分水嶺ヲナセト著シク東ニ偏在シ其ノ
東部斜面ハ急傾斜ヲナシテ鹿兒島灣ニ臨メリ。此ノ山脈
ノ西方萬瀬川ヨリ北一帶ノ地ニハ金峰山脈ニ屬スル山岳
連亘ス是等ハ萬瀬川支流ニ斷タレテ數條ニ分タレ廣瀬川
以東ニ於テハ連嶺ヲナシ以西ニ於テハ小岳分立ス其ノ内
ニアリテ東方ノ熊ヶ嶺母ヶ嶺、西方ノ高倉山、金峰山等著シ
ケレト金峰山ノ外高サ二、〇〇〇尺ヲ超ユルモノナシ

萬瀬川ノ南方ニアル金峰山脈ニ屬スル山岳ノ内著シキ
ハ長屋山及藏多山ニシテ高サ一、五〇〇尺餘稍急峻ニシテ
其ノ山勢南北ニ及ヘリ

第二十二章 萬瀬川水系

是等ノ山岳ヨリ東方一帶ノ地ハ火山噴出物ヨリ成リ高臺丘陵連亘ス此ノ地勢ハヒイテ南方諸河川ノ流域ニ及ヒ其ノ間ニ明瞭ナル分水嶺ナシ

萬瀬川沿岸ニハ平地アリ中流部ニ於テ山嶽河川ニ迫ルモノニ依リテ二分セラル一ハ川邊附近ノ平野ニシテ廣瀬川ニ沿ヒテ展延シ高距一五〇尺許アリ他ハ河口附近ノ平原ナリ又麓川沿岸其ノ他支流沿岸ニ少許ノ平地存在ス

(二) 地質 本流域ノ基盤ハ日向山脈ト同系ノ中生層ナリ該層ハ多少火山噴出物ニ掩ハルト雖尙流域内ニ多ク現ハレ流域内ノ稍高キ山岳ヲ構成セリ之ヲ列舉スレハ流域ノ北方ナル權現ケ尾ヲ初メトシ之ヨリ流域ノ東境ヲナス烏帽子嶺、荒嶺ヨリ麓川ノ南方一帶熊ヶ嶺、高倉山、金峰山、中嶺ヲ初メトシ萬瀬川ノ北部諸支流ヲ分ツ山岳更ニ河ノ南ニ於テハ長尾山、藏多山ヲ初メトン加世田ノ東及南ナル丘陵等ハ何レモ中生層ノ砂岩、粘板岩等ヨリ成レリ

是等ノ中生層ノ間ニ在リテ萬瀬川及其ノ支流ノ通スル所ノ河ノ沿岸一帶ノ丘陵等連亘スル所ハ熔岩火山灰等ノ火山噴出物ニ依リテ構成セラル。而シテ是等ノ火山噴出物ノ中ニ沖積層アリ川邊附近ノ平野勝目村ニ於ケル河岸ノ平地加世田ヨリ河口附近一帶ノ平野即チ之ナリ

稱シ二者宮ニ於テ相合シ萬瀬川トナル。行ク行ク高田川、勝目川及加世田川ヲ南方ヨリ容レテ西流シ吹上濱ニテ海ニ入ル

(二) 河況

萬瀬川本流 金峰山脈ノ荒嶺、烏帽子嶺ノ麓ニ源ヲ發ス本川ハ之ヲ三ノ區間ニ別ツラ得第一ノ區間ハ水源ヨリ知覽村下郡ニ至ル間ニシテ河川大ヲナサス河幅四、五間河床河岸共ニ砂礫泥砂ヨリ成リ勾配緩ナリ。知覽ヲ中心トセル河畔ニハ平地開ケテ耕地トナル。第二ノ區間ハ下郡ヨリ川邊村西ニ至ル間ニシテ川邊村宮ニ於テ廣瀬川ヲ合シリ大渡ニテ高田川ヲ併ス下郡小野ノ間約一、〇〇〇間ハ知覽平野ノ括レタル處ニシテ河床ニ熔岩盤ヨリ成リ勾配極メテ急ニ段流相次ク知覽川邊兩村界ノ下流約一〇〇間ニシテ手斧瀧アリ瀧ハ高サ約四〇尺ニシテ滔々タ水勢ハ岩ヲ噛ミ岸ヲ洗ヒテ深ク削刻シ溝渠ノ狀ヲ呈シ凸部ハ高ク顯レテ轉石ノ如ク凹部ハ深ク隱レテ水淀ム。小野ヲ過クレハ川邊平野潤然トシテ開ケ水勢急ニ衰ヘテ悠々西流ス河床河岸ハ共ニ砂礫ニシテ河岸ニハ雜草茂リ宮ニテ廣瀬川ヲ容レ流量倍加ス河幅十餘間トナリ勾配比較的緩ナリ。

第三ノ區間ハ西ヨリ河口吹上濱ニ至ル間ニシテ河況略第

(三) 林野狀態 流域ノ東及北ヲ限ル烏帽子嶺、熊ヶ嶺並金峰山一帶ノ山地ニハ國有林ナル混淆林點在シ林況良好ナリ尙河口ノ吹上濱ニハ防風林トシテ松ノ國有林アリ。是等ノ林地松、杉、櫻、椎等ノ疎林アリ林況概シテ不良ナリ。是等ノ林地ハ伐探行ハルレト其ノ跡及原野ニハ官行及民業ノ造林漸ク盛ニシテ林況一新ノ觀アリ

耕地ハ全面積ノ四割餘ニ當リ中流部川邊ト河口ノ加世田ヲ中心トセル平地ニ多シ。水田ハ耕地ノ約三割ニシテ本流知覽支流清水以下ノ川邊平野ト加世田平野ニアルモノト殆ト相同シ。畑地ハ上流部以下ノ傾斜セル河畔及低地ヲ耕セルモノニシテ本流竝廣瀬川、加世田川ノ沿岸平地ニ多シ

(四) 氣象 本流域ハ甚タ溫暖ニシテ下流部ニ於テハ年平均氣溫一九度ニ近シ。年雨量ハ二、三〇〇耗餘降雨日數一六〇日許ナリ

二、河川ノ狀況

(一) 概說 薩摩半島ノ分水嶺ハ著シク東ニ偏スルヲ以テ同半島ノ中部ニ於テ之ニ發スル西麓ノ諸流ハ皆合シテ萬瀬川トナル。本流ヲ麓川ト云ヒ北方ヨリ來ルヲ廣瀬川ト

シテ落下スルコト四〇尺之ヨリ下流白川ニ合スル迄ハ河幅一〇間内外ニシテ河床ハ全部熔岩盤ヨリ成リ中ニ幅三間餘ノ人工水路ノ如キ状ヲ成セル溝渠アリ勾配緩ニシテ濃藍色ヲ湛ヘテ淀ム。加世田村高倉ノ北方白川ノ支流合スル附近ハ河床ノ岩盤激流ノ爲メ不規則ニ削刻サレテ奇形ヲ呈シ水面ハ深ク隱レテ狹シ水面幅僅ニ二間餘ニ狭リ宛モ加工水路ノ如ク勾配急ナリ。之ヨリ河床ハ三度砂礫トナリ河岸ハ雜草類密生シ屈曲西流シテ吹上濱ニ於テ海ニ朝ス河畔ノ平地ハ加世田平野ニシテ耕地多シ

廣瀬川 美濃嶺、權現ケ尾ニ源ヲ發シ熊ヶ嶺ノ東麓ニ出ツル野崎川ヲ併セ宮ニ於テ本流ニ合ス。上流部小崎附近ハ河幅四、五間ニシテ河床ハ岩盤又ハ砂礫ヨリ成リ急峻ナル熊ヶ嶺ノ西麓ヲ流下シ勾配稍急ニシテ約六〇分ノ一内外ナリ市崎野ヨリ清水ニ至ル間ハ河床河岸共ニ岩盤ニシテ兩岸ニ削立セル丘陵ノ間ヲ流下ス清水ヨリ以下ハ河床河岸砂礫ニ變シ勾配緩ニ河畔ニ展開セル沃野ノ間ヲ蜿蜒南流シテ本流ニ合ス

(三) 流量 本水系ニ於ケル一年間ノ流量變化ノ狀況ハ一般河川ト大差ナク冬季ハ概シテ少ク春季稍增シ五六月ノ

交減少シ梅雨ニ入りテヨリ急ニ増加シ夏季ハ概シテ多ク
秋季次第ニ減少ス。月平均雨量ノ最小ハ常ニ冬季ニ起リ
一年間ノ最小流量ハ年ニ依リ冬季ニ起ルコトト五六月甚

濱時期ニ起ルコトトアリ。月平均流量ノ最大及一年間ノ
最大流量ハ梅雨ニ入リテヨリ八月末迄ノ間ニ起ル

参考
萬瀬川水系流量表
(電氣事業者調査)

| 事業者 | | 河川 | |
|-----------|-------|-------|--------|
| 萬瀬川 | | 測水所 | |
| 鹿兒島縣日置花郡瀬 | | 面流積域 | |
| | | 年次 | 流域 |
| | | 大正八年 | 最大 |
| 平均 | 大正十一年 | 大正九年 | 平水 |
| | | 大正十年 | 低水 |
| | | 大正十一年 | 渴水 |
| | | 大正十二年 | 最小 |
| | | | 流域 |
| | | | 一方里當流量 |
| | | | |

三、水利及治水

(一) 河口沿岸ニ堤防ヲ築造セラル事ノ外特筆スヘキモノナシ。水利事業ニ於テ最有利ナルハ
發電水力ノ利用ト用水ナリ發電水力ニ於テ既設並許可ノ
地點合セテ四アリ漁業ハナキニ非サレトモ少ク流材亦少
ク舟航ナシ

(二月が本水系ハ流域内ニハ川ソ四二〇〇畳歩ハ水田アリ、八〇〇町歩ハ知覽川邊ノ兩平野ニアリ他ハ全部加

世田平野及加世田川ノ沿岸地方ニアリ是等水田ニ導ク蓮

溉用水ハ本支流ヲ通シ到ル處ニアリ

(三)漁業 漁業ハ單ニ里人ノ閑暇ニ娛樂トシテ行フニ過キス鮎鱈鯉鮒等ノ漁獲アリ年產額三〇〇〇圓内外ナリ

四、水力地點 本水系ニ於テハ中流部ニ於テ河床熔岩盤ヨリ成リ段流相次キ勾配急ニシテ且手斧瀧、轟瀧等アレハ

水路小ニシテ有利ナル落差ヲ得ヘキモ既ニ既設發電所アリテ他ニ企劃スルノ餘地ナシ。許可地點左ノ如シ

萬瀨川水系許可地點一覽表

第二十三章 川內川水系

(一) 地形 川内川水系ノ流域ハ鹿兒島縣ノ北西部ヲ占メ
伊佐、姶良、薩摩ノ諸郡及僅ニ日置郡及宮崎縣西諸縣郡、熊本
縣球磨郡ニ跨リ北東ヨリ南西ニ延ヒ長サ一九里幅八里ニ
亘リ面積一一六方里アリ

本流域ノ地形ハ稍複雜ナリ流域ノ北境ニハ火山岩ヨリ
成ル國見山脈東西ニ延ヒ其ノ西方ヨリハ中生層ノ出水山
脈西南走シテ海ニ至リ流域ノ西境ヲナセリ又上流部ノ南
方ニ霧島火山等ニ中流以下河川ノ南方ニハ多數ノ小火山
簇立シ此ノ間ニ加久藤、大口ノ二盆地介在セリ